

子ども教育

通信



3月4日、
越前市役所を訪問し、
絵じでんを市長に贈呈。



ぽるとがるご
にほんごことばえじでん
を制作しました!

言葉の壁を超えて、深い交流が生まれるように。

モノやコトの名前を、絵とともにポルトガル語と日本語の2言語で表すことで、両言語を結びつける絵じでん。制作には、本学科の学生6名(卒業生含)が参加しました。近年、仁愛大学が位置する越前市の教育保育施設に、ブラジル人をはじめとした外国籍の子どもが増えていることを受け、本学科では、平成30年度より「ポルトガル語入門講座」を開講。その取り組みの一環として、教員・越前市職員も加わり協働で制作しました。作中では、四季をテーマに両国の文化を表現した絵で、計132の単語を紹介。学生たちは、約4ヶ月にわたる制作の末、A4サイズ全24ページに及ぶ作品を完成させました。絵じでんは、市内の教育保育施設や小学校等に寄贈されました。



異文化理解って面白い! お互いを知れば、
文化のちがいを楽しめる。



子ども教育学科4年
古川 結奈
武生東高校出身

子ども教育学科4年
山崎 春佳
仁愛女子高校出身

子ども教育学科4年
清水 美果
仁愛女子高校出身

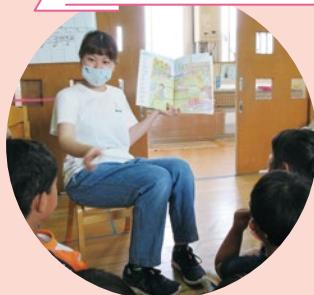
子ども教育学科4年
木村 朱里
武生東高校出身

子ども教育学科4年
斉藤 美咲
武生高校出身

卒業生
古橋 健果
あわら市立認定
こども園保育教諭

日本の四季をベースに、両国の季節から食べ物、生き物、子どもたちの様子などを連想し、各ページを作り上げていきました。日本とブラジルでは季節が真逆になるので、冬のページにはサーフィンをするサンタさんのシーンを採用。私たち自身も、制作を通してブラジル文化について理解を深めたり、日本の四季の美しさを再確認できたりしました。2つの言語をつなぐのは大変な作業でしたが、それぞれの特徴がわかり、面白かったです。この絵本が、ブラジルの子どもと日本の子どもにとって、交流を楽しむきっかけになってほしいです。

絵じでんを活用している保育園では、こんな変化が!



ブラジルの子どもたちが、
嬉しそうに母国語を
教えているんです。

越前市上太田保育園勤務
田中 千陽
平成28年度卒業



当園の子どもの約4割は外国籍です。子どもたちは外見や言葉の違いを自然と受け入れ、いつも一緒に遊んでいます。日本の子どもたちは普段から、ブラジルを友だちの母国として身近に感じています。絵じでんが届いた時には、「ブラジル!」コールをして大喜び!それからは、絵じでんを使って、ブラジル国籍の子が友人にポルトガル語を教える様子も見られるようになりました。人とのちがいが差別のきっかけにもなる現代において、相手の国の言葉や文化に興味を持つことが自然とできている子どもたちを頼もしく感じます。

教育実習リポート

子ども教育学科で実施している数多くの実習。学内の授業では学べない、現場での実践的な教育を体験します。
ここでは、幼稚園教諭一種免許状を取得するための教育実習を紹介します。



行ってきました! 幼稚園実習

子どもの気持ちに寄り添いながら、柔軟に対応する先生の姿に感動。



子ども教育学科2年 田中 瑞貴 | 敦賀高校出身 |

実習期間／2月20日～2月27日

実習先／仁愛女子短期大学附属幼稚園

1年次に参加した初めての幼稚園実習では、実際に園生活に参加して、現場での1日の生活の流れを体験しました。特に印象的だったのは、現場で起こる様々な出来事への、先生たちの柔軟で素早い対応です。そこには、子どもたちみんなが園生活を楽しめるような工夫が見られました。子どもたち同士がけんかをしていた時、先生は両者の気持ちをそれぞれに伝えることで、納得へ導き、仲直りにつなげていました。また、椅子取りゲームに負けた子が泣いてしまった時、先生は「惜しかったね」「お友だちのこと一生懸命応援してね」と声をかけており、負けた後でも遊びに参加できる対応に感動しました。私も、一人ひとりの子どもたちに寄り添いながら、臨機応変に援助できるようになりたいと思いました。

教える責任の重さを体験し、今後の成長につなげて欲しい。



鈴木 智子 准教授 中野 研也 准教授

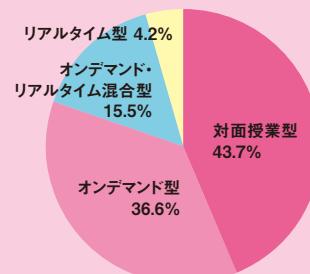
本学科の幼稚園実習は、1・3年次に実施。1年次の実習期間は5日間。「見学・観察実習」をテーマに、1日の生活の流れ、子どもたちや先生方の様子を見て参加して学びます。3年次は「参加・責任実習」をテーマに、15日間の実習を実施。先生の代わりに1日の生活全ても指導し、幼稚園教諭になるための自覚を深めます。実習前には、実習に必要な知識や技能、指導案の書き方、心構えを身につける学習を行い、実習後には自分の教育実習を評価・反省します。現場での体験を通して、教えることの責任を実感し、どんな時も常に最善の教育ができるよう、学び続けていってほしいです。

新入生を対象に、遠隔授業に関するアンケート調査を実施。

※6月上旬回答

本学は現在すべての授業を遠隔方式で実施しており、ネット上の授業動画などの資料を学生が自由に利用できるオンデマンド型と、オンライン通話で授業を実施するリアルタイム型の2種類の形態をとっています。実際に受講した新入生を対象に、遠隔授業に関するアンケート調査を実施しました。「学習効果が高いと思う授業形態は?」の質問に対しては、オンデマンド型を望む意見が、対面授業とほぼ同数見られ、自分に適したペースで学習できることをメリットに感じている学生も多いようです。また、「遠隔授業で困っていること」では、新入生は未だ同級生に会えない状況が続いていること、学生間のコミュニケーション不足を感じているようです。しかし一方で、パソコンなどのデバイスや自宅の学習環境には問題なく取り組めているようでした。

学生が考える学習効果の高い授業形態



遠隔授業で困っていること

